

第6回福祉医療常任委員会 要点記録

開閉会日時	平成30年8月10日(金曜日)			開会	9:56	会議場所	別海町議会 委員会室2		
				閉会	11:44				
委員の出欠	3 番	大内 省吾	出席	4 番	木嶋 悦寛	出席	7 番	今西 和雄	出席
	12 番	戸田 憲悦	出席	13 番	中村 忠士	出席			
出席説明員	福祉部長	河嶋田鶴枝	病院事務長	大槻 祐二	福祉部次長	青柳 茂			
	病院事務課長	三戸 俊人	福祉課長	干場みゆき	介護支援課長	竹中 利哉			
	地域包括支援センター長	九里 富恵	病院事務課主幹	石戸谷友絵	介護支援課主幹	高橋 勇樹			
	病院事務課主査	西田 和弘							
委員外の出席	議長	松原 政勝							
事務局職員	事務局長	浦山 吉人	主幹	松本 博史					
傍聴者数	一般	0名	報道関係者	0名	合計	0名			

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過
委員長 12 番 戸田	9:56 開会
	開催概要説明 出席委員5名、欠席委員0名
委員長 12 番 戸田	開会あいさつ
	【福祉部に係る調査】
福祉部長 河嶋	挨拶及び経過報告
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域合同防災訓練に合わせたの情報伝達訓練について ・自殺対策に係る計画策定に向けて ・戦没者追悼式について
委員長 12 番 戸田	議事1 所管事務調査について
	(1)高齢者保健福祉施策及び計画について
介護支援課長 竹中	概要説明
介護支援課主幹 高橋	内容説明
	高齢者保健福祉計画に基づき以下の項目について内容説明 <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活圏域の設定について ・高齢者を取り巻く環境について <ul style="list-style-type: none"> 高齢者に関する町民アンケート調査の結果 ・計画の基本理念 ・基本目標及び施策の体系図 <ul style="list-style-type: none"> 30年度以降あらたに取り組む事項を中心に説明 ①基本目標1 生きがいを持ち、積極的に社会参加できる環境づくり ②基本目標2 高齢者の健康づくり ③基本目標3 安心して生活できる環境づくり ④基本目標4 介護サービスの充実 ・介護保険事業計画について <ul style="list-style-type: none"> 各種事業の説明
委員長 12 番 戸田	質疑
委員 4 番 木嶋	①これからは、介護予防が大切であり、（サービスや自助の取り組みを）広げていく必要があると考えるが、どのように広げていく考えか。 ②配食サービスの範囲及びサービスを実施している事業者は。 ③サロンは、もっとあってよいのではないか。高齢者が歩いていける範囲で拠点を設けていくべきではないか。

第6回福祉医療常任委員会 要点記録

介護支援課主幹 高橋	<p>④ケアプランの点検の頻度と仕組みは。</p> <p>①別海市街の「すてっぷ」が開設し、サービスがスタートしたが、まだサービスが始まったばかりであり、現状の分析ができていない。今後「すてっぷ」と協議をして、その先の展開を検討したい。また、西春別地区でも介護予防の曜日を増やせないか事業者と検討している。他の地域での展開も構想している。民間に理学療法士、作業療法士の派遣の提案も可能ではある。</p> <p>②基本的には、安否確認対応も含め、町が広いがゆえに全町的なサービスがなかなかできていない。セブンイレブンやスーパーとも相談、調整していきたい。</p> <p>③今後、内容については整理していく。東部地区のサロンは、今後建設する介護施設にサロンの機能を持たせることを検討している。併せて介護予防施設としても考えている。住民説明を東部地区で今後重ねながら進めていきたい。中央地区は、生涯学習センター内での設置も検討していく。</p> <p>④ケアプランの内容の相談を地域包括支援センターで行っていたが、平成26年度を最後に行っていなかった。これから、保険者である別海町として内容を確認していく。各ケアマネージャーから1件なり2件プランを抽出してもらい点検をしていく。</p>
委員 4 番 木嶋	<p>①これからサービスの需要が増えると理学療法士等の人数が足りなくなるような気がする。人材の確保策が必要ではないか。</p> <p>④ケアプラン点検の頻度についてもう少し具体的に。</p>
介護支援課主幹 高橋	<p>①理学療法士及び作業療法士は、病院と老人保健施設にしかない。在宅部門の取り組みに協力してもらっている。今後のサービスの展開により不足があれば対応していかなければならない。</p> <p>④ケアプラン点検は、今年度1度やらせていただく。地域包括支援センターで2か月に1回、居宅介護支援事業所のケアマネージャーを集めて、連絡会議を開催している。その中でケアプラン点検の後のフォローをしていきたい。ただし、プランの数が多くなってきているので、今年度は1回とするが、今後頻度を検討したい。</p>
福祉部長 河嶋	<p>①補足であるが、今年度から、在宅サービスへのリハビリテーションの協力体制として、老人保健施設から療法士を派遣するに当たり、町立病院の療法士2名に兼務発令をしている。病院配置の理学療法士を1名、老人保健施設配置の作業療法士を1名採用しているが、事業展開を踏まえて、今後も病院と連携していかなければならないし、介護予防について関わってもらうよう継続して協議していく。</p>
委員 3 番 大内	<p>①サロンの設置については、空き家などを活用しながら拠点づくりをしてはどうか。例えば、上春別、西春別、中西別などにおいてお年寄りが集まって楽しめる地域型の拠点を地域のニーズを反映させながら整備していくことも必要ではないかと思っている。</p> <p>②老人クラブの現状はどのようになっているか。</p>
介護支援課長 竹中	<p>①地域会館を活用して町内会活動の中でサロンに取り組んでいる事例もある。</p> <p>②老人クラブの数は、現在町内に19団体と把握している。</p>
委員 3 番 大内	<p>①町内会館は制約があって、カラオケや食べたり飲んだり楽しむにあたって難しい施設かなと思う。孤立していく人をなくすように考えていただきたい。</p>

第6回福祉医療常任委員会 要点記録

委員長 12 番 戸田	<p>3地区で始まったサロンであるが、現在も3地区である。尾岱沼では、地元の女性部が手伝っている。街からはずれているところに住む人は集まりにくい。敬老会に集まらない人もいる。対象者はいるけど、人が集まらないという町内の現状があると思う。</p> <p>何かをやる場合、楽しみがないとダメだと思う。例えば、家庭菜園など。計画の中でお年寄りに生きがいを与えるような取り組みが必要ではないか。何かを楽しむという考え方をもって計画を進めていくことが大事なと思う。</p> <p>高齢者がいかにして孤立しないようにするかという考えは同感。行政だけできめ細かくかゆいところに手が届くようなことができないことがある。地域の拠点をつくった場合、その運営をどうしていくのか地域と協議しながら考えなければならない。何かを楽しむという考え方もその通りであると思う。</p> <p>前回は話したが、自助・互助という考え方がこの高齢者保健福祉計画の中で必要なことと考えている。(まず、行政としては)既存の資源を充実していく。(地域において)「あの人、最近見なくなったね」という声が出たときに行政の出番であると思う。こうした自助、互助、公助の線引きをどうするかが大事だと思う。行政としての取り組む姿勢をあらためて聞かせていただきたい。</p> <p>いまある資源を有効に活用していくことが大事で、地域でできないこと、民間でできないことがあったら、行政としてしっかり対応していきたい。</p> <p>いま自分が高齢者の立場、介護を受ける前の立場となり、同世代同士で話し合うことが自助としてできることなのかなと思う。</p> <p>計画を見ると非の打ちどころがなく、見た目「他助・公助」の仕組みのように感じるが、やはり自助・互助の考え方が大事だと思う。行政頼りは問題だと思う。地域の意識を掘り起こすという取り組みがこれから大事だと思う。</p> <p>①外出支援サービス事業について、サービスの対象者の記述に「寝たきり高齢者」と書かれている。長く歩くのが困難で寝たきりにまで至らない方も地域にはいるが、このような方に対する移動支援の考え方を聞きたい。</p> <p>②要支援、要介護認定者数の推計が計画に記載されているが、例えば認知症高齢者は27年から37年を比較すると、約300人増加となっている。一方、町民の施設入所サービスを受けたいというニーズは高い。この問題をどう考えるか。職員の確保の問題をどう考えるか。計画に位置付けているか。</p> <p>③高齢者の団体について、老人クラブは594人会員と記載されているが、対象となる年代の人口は約4,000人となっている。この数字のギャップをどのように考えるか。</p> <p>①移送支援には、特殊な車両を要しており、ストレッチャーと車椅子で移動する人を対象にしている。車椅子利用の方は対象になると考えていただきたいが、動くことができる人は対象にならない。デマンドなど他の施策での対応になると考える。</p> <p>②ニーズ調査を見ても、施設の入所を求める声が高い。認知症対応のグループホームは、町内に3か所あるので、いまの段階では第7期の計画期間中は充分対応できると考えている。特別養護老人ホームの待機者の約90名のうちの40名ほどは、要介護1、要介護2の段階の方であり、このような段階の方たちを在宅のサービスの対象とし、早期の介護予防の推進をしていかなければならないと考えている。</p>
委員 3 番 大内	
福祉部長 河嶋	
副委員長 7 番 今西	
福祉部長 河嶋	
副委員長 7 番 今西	
委員長 12 番 戸田	
委員 13 番 中村	
介護支援課主幹 高橋	

第6回福祉医療常任委員会 要点記録

	<p>③老人クラブに聞いたことがあるが、なかなかすぐに入会してもらえないという声を聞いた。今後対策を検討していかなければならないが、まだ具体的な取り組みは考えられていない。</p>
委員 13 番 中村	<p>①町の懇談会も議会報告会でも移動支援に対する声が多い。デマンド交通など先進的な取り組みもあるが、まだまだこれから。特に買い物弱者に対する対応もしっかり考えていかなければならないのではないかと。移動支援と併せて考え方を聞きたい。</p>
介護支援課長 竹中	<p>②介護現場の職員の確保の問題について、回答がなかったので、あらためて伺いたい。</p>
委員 13 番 中村	<p>①移動支援、買い物弱者の問題は、地域の中に「買い物に行きたいんだよね」という声があるため、サービスの使いやすさの検討をしていきたい。</p>
委員 13 番 中村	<p>②職員の確保対策については、全国的に見ても別海町は手を打っていると評価されてしかるべきと認識している。しかし、手を打っても問題はまだまだ深刻である。このため、参考に聞いて欲しいが、職員の待遇を抜本的に改善してはどうか。例えば、へき地手当のような待遇改善策を。突飛かもしれないが、一律に待遇改善をするなど、何らかの方法で問題を解決していく考えを念頭に置いて取り組んでほしい。</p>
委員長 12 番 戸田	<p>議事2 その他 特になし 11:17 休けい 11:29 再開 【町立別海病院に係る調査】</p>
委員長 12 番 戸田	<p>議事1 所管事務調査について (2)別海病院の医師等確保の状況及び診療体制について 内容説明</p>
病院事務長 大槻	<p>病院の医師等確保の状況及び診療体制について ・内科医の確保に向けて ・小児科医、循環器内科、皮膚科、整形外科の状況について など</p>
病院事務課長 三戸	<p>病院の運営状況について ・患者数について ・経営収支について</p>
委員長 12 番 戸田	<p>質疑 外来の患者者数の減少は、内科によるものか。</p>
病院事務課長 三戸	<p>今村院長の休診による減少と、4月まで小児科医が常駐していなかったことによるところが大きいと考えている。</p>
委員長 12 番 戸田	<p>これから来院数が回復していくと考えているがいかかか。</p>
病院事務長 大槻	<p>確かに病院が静かな感じがする。来院が落ち着いている感じがする。何が原因であるか見い出せていない。気候や産業の動向によるものではないかとも考えることがある。</p>
委員長 12 番 戸田	<p>議事2 その他 特になし</p>
委員長 12 番 戸田	<p>11:44 開会</p>